

## 研究発表

# 聴覚障害児の思考力を育てる 指導の在り方



広島県立広島南特別支援学校

## 研究の概要

|       | 幼稚園                                                                                          | 小学部・中学部・高等部                                                                                                   |
|-------|----------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 研究の目的 | 幼児の発達段階を踏まえ、思考を巡らせることができる話し合い活動を通して、思考力を育てる指導の在り方を追及する。                                      | 聴覚障害のある児童生徒の実態を踏まえ、聴覚障害教育と教科指導の両面から、指導・支援を考え、実践を積み重ねることを通じて、思考力を育てる指導の在り方を追及する。                               |
| 研究の仮説 | 「話し合い活動における言語発達段階評価表」を用いて幼児の実態を把握し、発話内容の分析を行い、指導・支援を検討し実践していくことで、幼児の「言語力・思考力」を育てることができるであろう。 | 思考プロセス「3つの『つ』」を取り入れた学習を通して、既習の知識や経験を関連付けて思考させ、各教科や科目などの特性に応じた「見方・考え方」を働かせた学習活動を重視した指導を行うことで思考力を育てることができるであろう。 |

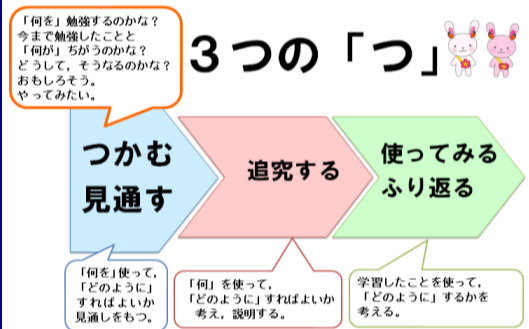
## 幼稚園

### (1) 話し合い活動における言語発達段階表を用いた実態把握

| 発達段階          | 話し合い活動の中で付けたい力                                                                                                                                                          | 指導の在り方                                                                                                                                       |
|---------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| Ⅲ<br>4歳<br>年中 | <b>☆基本話型</b><br>(いつ・どこで・誰と…) <ul style="list-style-type: none"> <li>・2～3語文で話すことができる。</li> <li>・質問に応える形で、基本的なことを話すことができる。</li> <li>・尋ねられなくても自分から少し詳しく話すようになる。</li> </ul> | <b>基本話型の定着に向けて</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・見本を示したり、文を整えたりしながら、2～3語文で話すよう促す。</li> <li>・子どもの言語力にあった言葉(文)を提示し、模倣を促す。</li> </ul> |

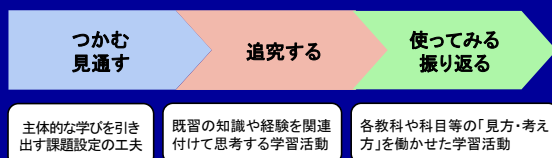
- ・聴覚障害児 2歳児～5歳児を対象。(就学前、年少、年中、年長前期、年長後期の5段階)
- ・話し合い活動の中で、付けたい力、指導の在り方を表記。
- ・幼児の発話内容の分析、教員の指導改善を行う。

## 小学部・中学部・高等部



## 小学部・中学部・高等部

思考プロセス「3つの『つ』」を取り入れた授業展開



「深い思考を促す発問の工夫」

「意図的な言語化」

生活で生かせる資質・能力として育てる

## 令和3年度授業研究会日程

|                     | 乳幼児                 | 幼稚園         | 小学部          | 中学部<br>高等部   |
|---------------------|---------------------|-------------|--------------|--------------|
| 授業者                 | 清水美奈子               | 上山知子        | 林崎恵          | 宮崎裕伸         |
| 教科等                 | 集団保育                | 総合活動        | 算数           | 数学           |
| 第1回目<br>校内授業<br>研究会 | 7月16日<br>(金)        | 6月2日<br>(水) | 6月11日<br>(金) | 6月24日<br>(木) |
| 第2回目<br>校内授業<br>研究会 | 9月22日(水)<br>校内授業研究会 |             |              |              |

| 指導助言者      |                                                | 上段:聴覚障害教育<br>下段:教科・科目等指導 |  |
|------------|------------------------------------------------|--------------------------|--|
| 学 部        | 指導助言者氏名                                        |                          |  |
| 乳幼児        | 愛媛大学 教育学部<br>教授                                | 立入 哉 先生                  |  |
| 幼稚園        | 前筑波大学附属学校教育局<br>特命教授                           | 松本 末男 先生                 |  |
| 小学部        | 東北福祉大学教育学部教育学科<br>教授<br>庄原市立庄原小学校<br>指導教諭      | 大西 孝志 先生<br>高瀬 千香子先生     |  |
| 中学部<br>高等部 | 筑波技術大学 障害者高等教育研究支援センター<br>准教授<br>県立広島中学校<br>教頭 | 脇中 起余子 先生<br>奥本 実 先生     |  |

### 今年度の授業研究会について

○授業研究会を2回実施した。新型コロナウイルスの感染拡大の影響のため、指導助言者には、対面での指導助言ではなく、研究授業の様子を撮影したDVDを送付し、視聴していただき、指導助言をいただいている。

○第2回目は公開授業研究会の一般公開を中止し、校内授業研究会に変更した。各学部（幼稚園、小学部、中学部・高等部）の講演を、オンラインで実施した。

### 検証の方法（令和2年度）

#### お話づくりにおける幼児の表出の変化の分析



100てんキッズお話作り絵カード  
幻冬舎

日常をテーマにしたお話の絵カード4枚を用いて幼児がお話づくりを行い、表出単語数や表出内容で分析を行った。

| 幼児  | A  | B  | C  | D  |
|-----|----|----|----|----|
| 1学期 | 18 | 20 | 11 | 13 |
| 2学期 | 18 |    | 16 | 15 |

### 検証の方法（令和2年度）

#### <小学部・中学部・高等部>

- （1）行動観察
- （2）ワークシート等の記述内容の比較
- （3）試験の正答率の比較

すべての項目において、1学期と2学期のデータを比較する。

### 検証の結果（令和2年度）

#### <幼稚園>

- ・表出数が増え、詳しく話したり、話の筋を捉えた内容を発言したりする幼児が増えた。

#### <小学部・中学部・高等部>

- ・状況や場面に応じて、**既習事項を活用しながら**表現する力が育ってきた。
- ・自分の考えを整理し、**教科で学習した用語を使用して**表現する力が身に付いてきている。
- ・様々な意味や効果をもつ言葉を読み取っていく力や象徴的表現の理解等を含めた**抽象的な思考力**が向上しつつある。

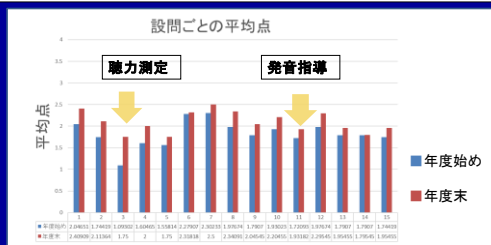
### 授業づくりを支える取組の成果①

#### 「広島南特支版 聴覚障害教育 専門性向上チェックリスト」の作成

令和2年度からの新たな取組として、本校オリジナルの「聴覚障害教育専門性向上チェックリスト」を作成し、自らの知識及び指導・支援方法を振り返る機会を設け、年度始めと年度末の2回、授業に携わる全ての教育職員が、チェックリストを記入し、自らの教育活動について自己評価を行った。

## 令和2年度広島南特支版聴覚障害教育 専門性向上チェックリストの結果

- ①全項目において、数値の上昇がみられた。
- ②年度初めに数値の低かった「聴力測定」及び「発音指導」に重点的に取り組んだ。



## 授業づくりを支える取組の成果② 来校者アンケートの結果

幼児児童生徒に豊かな言葉が身に付くように、言葉の環境づくりに取り組んでいる。来校者を対象として、次の2点についてアンケートを行った結果、100%の肯定的評価をいただいている。

- ・専門性を発揮した授業づくり  
(視覚教材の積極的な活用、板書の工夫、教師の立ち位置、視線・話し方等)
- ・言葉の環境づくりについて  
(教室環境・掲示物等)

## 授業づくりを支える取組の成果③ 日本語の習得・定着と学力の向上

毎年、小学部・中学部・高等部で実施している「読書力診断検査」では、昨年度、全ての学部において、実施した児童生徒の半数以上で偏差値の上昇が見られた。

日頃の授業づくり及び日本語の習得や定着に向けた指導、読んだり書いたりする機会を確保する取組の成果が表れたものとする。



## 課題

### <幼稚園>

- ・話の内容によっては、幼児の経験や理解に差があり、発言する幼児が偏ってしまう。
- ・個々の幼児に応じたやりとりを通して、共通理解を図りながら話合いを進めていくよう、教員の支援について検討していく必要がある。

### <小学部・中学部・高等部>

- ・複数の情報を整理しながら課題を捉え、筋道立てて説明することには課題がある。
- ・教師が説明する時間よりも、生徒が発言しながら活動できる時間を十分に確保していく。
- ・教科の見方や考え方を日常生活で活用できるような学習を積み重ねていく必要がある。